香川県農業試験峡研究報告　第 50 号(1998 年 3 月)　27-31

傾斜地モモ園における省力化技術に関する研究

第 1 報　斜立主幹形の省力効果及び適正樹型

山下泰生・丸尾勇治郎・片桐孝樹

傾斜地園における斜立主幹形の作業労働時間,収量,品質及び適正樹型について検討を行った。

１．斜立主幹形の作業労働時間は,開心自然形に比べて 20%以上短縮された。果実品質の整枝法による差は認められなかったが,斜立主幹形では果実品質のばらつきが小さかった。

２．斜立主幹形は,9～12 年生で成木に達し,成木 1 樹当たりの平均収量は約 70kg であった。

３．斜立主幹形の傾斜地での植栽間隔は,傾斜方向に 4～5m,等高線方向に 8～9m が適正であると考えられた。

４．斜立主幹形の主幹は,長さを 400cm 程度,主幹斜立角度を 60 度程度にすることで,樹勢が維持でき,倒伏の危険性も低くなり,作業能率も向上すると考えられた。

キーワード:モモ,傾斜地,整枝法,斜立主幹形